

夏の花暦

7月～9月



キツネノカミソリ



イワタバコ



アジサイ



沙羅



萩



ユウスゲ

◆住職が高野山真言宗宗会議員を任期満了しました

如意寺住職・友松祐也師は、4年間に及ぶ高野山での宗会議員の大役を任期満了しました。いろいろな経験を活かして、今後とも諸方面でお役に立てればと話しています。



「珠山千年石の庭」がきれいです!

鹿の防柵大改修で花も大安心…

昨秋、防柵ネットが張られているにも関わらず、鹿・猪に庭の一部を荒らされました。今年3月、約500mの強固な柵を山林内に再施工しました。自然の植生を活かした庭造りは大変手間がかかりましたが、これで「珠山千年石の庭」や「つじ山の散策道」も皆さまの期待に今まで以上ににお応えできそうです。移り変わる季節の和の風情をお楽しみください。
イギリスの某お城跡で世界中から観光客を集める園芸家の方が、庭の管理のコツとして三原則①雑草は見たらすぐ抜け。②剪定をせよ。③よく観察せよを挙げておられます。とても及びませんが、精進したいと思います。
昨年は、人間国宝の坂東玉三郎丈、今年6月は、細川護国氏にご訪問いただくという僥倖がありました。今後とも、心を込めて丹誠したいと考えております。

夏水仙

※お願い

今回、〈千日会の歴史〉(裏面)を少し詳しくご紹介しましたので、これを「如意寺の歴史No.6」、および従来の裏面の記事(法話)の兼用とさせていただきます。ご理解ください。

本尊様のお祭「千日会」近づくと!

今年も「千日会」の季節がやってきます。「今日はせんにちさんだ。」当地方に生まれ育った者は、朝から「どこか張りつめた厳肅さとウキウキ感」があり、正月と同じくらい特別な雰囲気を感じる日でした。今でもそれはあります。(その歴史を裏面に特集しました。)千日会は、本来、花火の日でも観光の祭でもなく、観音信仰に基づく伝統の仏教行事であります。「なるほど!」とお感じ頂ければと思います。

●千日会祈願護摩

当日申し込み可。(七月一日より予約受付。郵便申込み可)。当日、午後七時より不動堂で護摩祈願いたします。千円。お札はありません。

●祈願・供養の灯籠流し

申込みは右記と同じ。当日七時半より、寺の前の海岸から流します。その時に自分で流すこともできます。千円。

●三つの幽玄の火

〈花火・灯籠流し・大文字焼き〉七時半から寺の前の広場から鑑賞できます。駐車可能。如意寺休憩所では「うどん」あり。



久美浜湾の光景

露店(町内)



流し灯籠に願いを書き



ライトアップされた不動堂

久美浜の手ごろな体験メニューとお薦め食事処 保存版

体験 ◆豪商稲葉本家 (検索)で。(寺から2分 水曜休館)

- ①陶芸体験：土日は予約不要。平日は要予約。一人3,000円。約1時間。
- ②お香体験：土日は予約不要。平日は要予約。一人2,000円。
- ③紙芝居体験：「手づくり紙芝居」2本を朗読します。予約。一人500円。(6人以上割引)
- ④時空を超えるポスト：あなたのメッセージを未来にお届けします。

◆久美浜遊覧船体験 久美浜湾を遊覧できます。また、「無人島(施設の名称)」で、BBQもできます。いずれも予約。「無人島」HPで検索してください。

◆フルーツ狩り体験 「久美浜観光総合案内所」で検索してください。

お薦め食事処 < >内は、如意寺からの車での時間。

- ①バラ寿司/ばた餅：【豪商稲葉本家】<2分>(水曜休)予約不要
- ②洋食：【ヘロン】<3分>(木曜休)
【アオノネ】<3分>(水曜休・原則予約)
【ベイクック】<5分>(火曜と第3月曜休)
【ホリデー・ホーム】<10分>(無休)
- ③そば：【なかに】<2分>(水・木曜休) 【ろあん】<10分>(木曜休)
- ④海鮮料理：【みなと荘】<10分 場所は小天橋>*海鮮丼が美味しい。一応、電話でご確認ください。TEL.0772-83-1115
- ⑤美術館と創作和風料理：【美術館「森の中の家」】【レストラン「MORI(モーリ)】<13分 R312を峰山方面に約8km>

*美術館「森の中の家」TEL.0772-84-9901

*レストラン「MORI(モーリ)」TEL.0772-84-9898

(いずれも10:00~18:00 火曜休) ※同じ敷地内で別棟 お土産や絵本の展示、販売もあります。

~画家 安野光雅の美術館と(株)紫野和久傳<本社・京都市>謹製の創作和風料理~

※お食事処は他にもあります。



ヘロン



H29.6.23 オープン

七夕まつり 6月17日~7月10日まで、「豪商稲葉本家」で七夕飾りをしています。町内女性の方々の手づくりの豪華七夕飾りです。ぜひ、ご覧ください。(無料)

豪商稲葉本家



『如意寺本尊会・千日会』の由来と“現在”

「千日会」は、8月9日、清水寺や四天王寺など全国の主な寺院の観音様にお参りすれば、千日間続けて参詣したと同じ功德があるとされる観音信仰に基づく仏教行事で、江戸期に遡ります。当地方では、如意寺の「千日会」がよく知られ、本尊「十一面観世音菩薩」（眼守護）のお祭として伝わってきました。この日は、丹後や但馬各地、また、京阪神からも近隣の観光地に宿泊するなどして参拝されます。

如意寺は約50年前までは現在地から約2キロ離れた観音山の中腹にありました。真言・天台・奈良仏教の古刹にはこのような山岳寺院が多いことをご存知と思います。近くの但馬地方では、温泉寺・日光院。丹後では、西国さんの成相寺・松尾寺など。その他の西国さんでも勝尾寺、花山院、長谷寺、清水寺、円教寺…など。

久美浜の町からは、久美浜湾の左前方にそびえる「観音山」の中腹に旧如意寺本堂の大屋根が望めました。大正から戦前の伝聞によれば、「千日会」には観音山山麓の船着き場から境内まで数百メートルの参道沿いに、優に百を越える露店が立ち並び、境内には見せ物小屋も建てられました。参拝者は早朝より2キロの山道を徒歩で、または、湾上を数十艘の小舟や渡し船に乗って参拝しました。祈願のお灯明をあげる人々の声、夜のご詠歌、お籠もりをする人、夜店を照らすカーバイドの明るい光と立ちこめるガスの煙の匂い、夜明けまで続いた盆踊りなどで賑わったそうです。戦後も多くの露店が出て賑わっていました。私(住職)にとっても子どもの頃の一番の楽しみの日でした。

江戸時代の寛政の頃、久美浜代官塩谷大四郎が、久美浜湾で「水天流し」を創始しました。もとは孟蘭盆会の15日夜、ローソクに点火して湾内に流したものです。これは湾内の水死者を弔うため、町内寺院が浜施餓鬼を行ったあと乗船し、一斉に流された水天とともに湾内を一周して読経して供養しました。

戦時下、「水天流し」は一時中断したものの、千日会行事に結びつけて、「灯籠流し」として復活しました。昭和30年頃までには、商工会を中心とする久美浜町振興会、観光協会の肝煎りで、花火や大文字焼きをはじめ、多彩な行事と宣伝により久美浜町の商店街一帯に数万の人出を集めるようになりました。昭和28年からは臨時列車も運行。サーカスが来たり、京都の六斎念仏や鳥取の花笠踊りが招かれた時代もありました。これらは、如意寺の「千日まいり」と盆の買い物兼ねて、熊野郡内外から来られる多くの人達に対する町衆や商店街の人達の感謝の表現でもありました。如意寺が現在地に遷った後は、観音山の賑わいは昔話となり、現如意寺を含む町なかでのお祭となりました。

現在は、久美浜町観光協会を中心に区長会を含む町内6団体や住民の皆さまのご協力で、**花火・大文字焼き・約五千基の灯籠流し**が継続され、湾上に繰り広げられる風情溢れる稀有な「**幽玄の火祭**」として知られています。

〔追記〕

暦も7月となり梅雨が明けかけると、「千日会」の件でもいろいろな方が寺に立ち寄られます。それぞれの思いを抱いて「千日会」を迎える方が多いと感じます。

「千日会」のお参りには次のような行事もあります。

・「千日会」に是非行いたい祈願がある。」

⇒「千日会護摩祈願」があります。（7月1日より当日まで申込随時。郵便可。）

・「親しい家族や友人を亡くした。“千日会”で供養をしたいがどうすればよいか。／一緒に“千日まいり”をした祖父母や両親の霊を弔いたい。／この機会に先祖供養をしたい。／亡くなった子どもの供養をしたい。」

⇒「供養の流し灯籠」（申込み、上記と同じ。千日会の夜、寺の門前の湾に流します。）

観音菩薩の慈悲の下、懐かしい故人を思い起こし供養し、残された人も心安らかとなる。一年のほぼ真ん中に当たるこの時期、毎日を振り返り思いを新たにできる機会となるのが、「千日会」の今日的な意義ではないかと考えています。



ことは



- 人生、出会うべき人に必ず出会う。
- 会って話せ。たいていのことは受け入れられる。
- 互いが譲歩したと思える契約が一番うまくいく。（洋画の中のセリフ）
- 「日本人は、先祖の気配を感じてその前で身を慎んで生活してきた。日本人の高い宗教心・信仰心がうかがえる。」（山折哲雄・宗教学者）
※ 自分は宗教心がないと思っている方も、決してそんなことはないのです。